

独立行政法人国立病院機構

松江医療センター
呼吸器病センター
 〒690-8556
 松江 市上乃木5丁目8-31
 TEL (0852) 21-6131 FAX (0852) 27-1019
 URL <http://www.mmedc.jp/>
 発行責任者
 院長 徳島 武
 編集者
 事務部長 上甲 尚史



松江医療センター グランドオープン

乃木上空から病院を眺めると、東京ドーム3個分（約13万㎡）の広い敷地に、新しい2棟建ての病院と駐車場が輝いています。褐色の砂地もまもなく緑の芝生で覆われたらもっときれいに見えることでしょう。

もくじ

年度挨拶	2～3	がんサロンのご案内 ～コーヒー入れて待ってます～	11
松江医療センターがグランドオープンしました	3	各診療科・各部門職場紹介	12
教育研修部から 拝啓 新人さんへ「成長のイメージ」を持つこと	4	ニューフェイス紹介～桜の下で笑顔満開～	13
米国胸部医師学会によるCHEST2014に参加して	5	転勤で参りました	13～14
神経・筋政策医療ネットワーク協議会中国ブロック 平成26年度研究発表会を開催して	6	人事異動	14
第4回 院内発表会について	7～9	開業医紹介コーナー	15
医療安全管理研修Ⅱを終えて	10	しじみ会（新春号・二月立春号・三月ひな祭号）	15
1階・2階・3階病棟「還暦の式」	10～11	地域医療連携室だより	16～17
3階病棟 節分会	11	外来診療表	18



年 度 挨 拶

～新装グランドオープンで、新年度をスタート～

院 長 徳 島 武

平成21年の病棟新築から続いた一連の整備工事も、昨年来管理診療棟が完成し、この4月に最後の駐車場等工事をもってすべてが完了し、4月13日に新装グランドオープンを迎えました。従来の療養所時代から生まれ変わった新しい病院の姿を、住民の皆さんにも是非見ていただきたいと思ひます。病院の入り口も広くし、7月からはバスも乗り入れます。380台収容の広い駐車場も整備しました。一方で以前の病院玄関前のロータリの樹木やツツジ、桜の木はできるだけ残して、歩道沿いには御衣黄など多くの植栽を行いました。

そして満開の桜のもとで、4月1日の辞令交付では、28名の新採用者の皆さんと20名の転入者の方々を迎え、新たな気持ちで新年度をスタートしました。とくに看護師不足の山陰地方にあって、幸いにも当院はこの5年間コンスタントに20名以上の新卒看護師さんが就職し、順調に育ってくれています。新人スタッフの加入は組織を活性化します。どうか早く職場や仕事に慣れて、病院の大きな力になることを期待しています。

さて、病院の建物はこのように新しく生まれ変わりました。これからはそれに負けないような診療内容の充実を図らねばなりません。看護師さんは確保できたので、5月から4階西病棟（一般急性期）を除く、5個の病棟を障がい者施設等入院基本料10対1から7対1看護に変更し病棟運営する予定です。これにより診療報酬も増えますが、なにより病棟に看護師さんをより多く配置することで、重症化や高齢化してきた障がい患者さんの看護が充実し、きめ細やかな対応が行えると考えます。

また病院機能評価受審を計画しています。今年度その準備をすることで、病院内の組織や運営上の要改善点が明らかになり、課題解決のため横断的に協力することで職員の一体感も生まれてくると考えます。当然医療の質の向上も図れます。認定のハードルは年々高くなっていますが、職員一丸となって努力していきたいと思ひます。

昨年度は建替整備工事等の費用がかさみ、収支率が100%を下回ったため、機構のリスタートプランの病院（経営改善病院）となりました。今後の厳しい医療状況の中で収支を黒字にもどし、今後の償還計画を堅

持するためには、一層の経営改善策を図らねばなりません。健全な経営なくしては良質な医療は提供できませんし、また良質な医療を提供していけば経営は健全化すると思ひます。利益は将来の発展のためのコストであり、したがって、病院の継続と発展のためには利益を得なければなりません。そこで今年度から平成29年度までの3か年の経営計画をヒアリングのもとに立て、皆さんに周知して積極的に取り組んでいきたいと思ひます（詳細は次回穴道湖に掲載予定）。

一方で4月から法律改正により、国立病院機構は中期目標管理法人の非特定法人となり、すべての職員の身分は非公務員化になりました。しかしながら、病院という業務の公益性が高いことから、みなし公務員となり、法定継承や第2共済組合加入、守秘義務や罰則の適用等、基本的には今までと大きく変わることはありません。むしろ経営面で、基礎年金が病院負担になる公経済負担や、労働保険料の負担で、当院の場合約1億円の病院負担が生じることが今年度からの病院経営を圧迫します。

国においては、2025年問題、少子高齢化の進行や人口減少社会の到来に向けて、今後社会保障費を確保するため医療制度が大きく改革され、医療情勢もめまぐるしく変わっていきます。昨年10月に「病床機能報告制度」が施行され、本年3月には都道府県における地域医療構想（ビジョン）の策定のためのガイドラインが示されました。今年度は医療ビッグデータを活用し地域医療の実態を把握し、さらなる病床の機能分化と連携が推進されます。そのためには地域の医療の特性や実状に相応しい医療提供体制を構築することが重要です。島根県でも医療ネットワークづくりに向けて積極的な取り組みがなされていますが、地域に必要な良質な医療を公平に提供して、住民の皆さんの生命と健康を守るために、医療機関のひとつとして、当院がこれから何をなすべきか、何ができるかを真摯に考え行動することが求められています。

当院はこれまで通り、呼吸器疾患の急性期医療と、重心・筋ジス・神経難病のセーフティーネット医療を行い、呼吸器および障がい医療の地域の拠点病院としてしっかりとその役割を果たしていきます。病院が新

しくなり、多くの高度医療機器を更新した今年度は、これらの特化した診療機能をより充実させるべく努力し、地域行政や周辺医療機関とのさらなる連携を強化していく必要があります。

平成27年度の病院目標を、以下のごとく掲げました。すべてのスタッフがしっかりと自覚し、この1年間頑張らしましょう。

平成27年度病院目標

1. 「経営改善病院」として、これまで以上に収支改善を図り、今年度の年次計画を達成すること、とくに患者数確保に努めること
2. 地域との連携を深め、地域医療に貢献すること
3. 病院の組織力を高め、温かく質の高い医療・療育を提供すること
4. 病院機能評価受審に向けて、その体制づくりを行うこと
5. 各職種間のコミュニケーションを図り、相互連携をさらに深めること
6. 職員がやりがいを持って働ける病院づくりをめざすこと
7. 常に学習し、知識と技術を高めること



松丸くん

松江医療センターがグランドオープンしました

管理課長 黒田 裕 介

平成27年4月13日（月）、新病院グランドオープンを記念して完成記念式典が執り行われました。平成21年に新病棟の完成、そして昨年2月の新外来管理診療棟のオープンに引き続き、今回の外来者用駐車場等の外構工事をもって6年間に渡る全整備工事が終了いたしました。



当医療センターは、これらの整備完了により、以前の療養所から新たな「松江医療センター」に名実ともに新しい病院の姿を皆様にお見せすることができました。

概要を申し上げますと約380台の駐車場と歩行者用通路や入院患者さんのための遊歩道等を新たに設け、一方では、従来からある玄関前のロータリー樹木や桜の木々を残しつつ、環境整備に取り組みました。また、本年7月からは、路線バスの敷地内への乗り入れも決定いたしました。

これまで、当医療センターは、呼吸器疾患、神経難病、筋ジス、重症心身障がい児（者）医療において、地域との強い連携のもとに地域の拠点としての使命と役割を果たしてまいりました。今後もリニューアルした建物、療養環境、医療機器により、「真心と思いやりをもって」、ますます患者さんと働く職員にとって優しい病院を目指して、良質な高度な医療・福祉の提供に努めてまいります。

整備期間中にご支援、ご協力頂きました皆様方には、厚くお礼申し上げます。今後とも皆様方のご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



～ 教育研修コラム ～

拝啓 新人さんへ「成長のイメージ」を持つこと

呼吸器内科医長・教育研修部長 門 脇 徹

春になりました。この原稿が皆さんに読まれる頃にはもう桜の花は散っているかもしれません。しかしとにかく今年も春がやってきたのです。今年から入職する皆さん、おめでとうございます！いろいろな不安を抱えながらの社会人、医療人としてのスタートだと思えます。教育研修部は皆さんの学びたい気持ちに応えていきますのでご安心ください。しかし、あくまで学ぶのは皆さんであって、教育は「与えられるもの」ではないことを肝に銘じておいてください。

毎年この時期になり、新人さんの初々しい姿を見かけると、自分が研修医の頃を思い出します。初めは本当に何もできませんでした。必死の思いで食らいつき、ひたすら頑張っていくうちに、いろいろできるようになりました。自分の“領域”が水平方向にひろがっていくイメージでした（このことは2014年4月号の「穴道湖」に具体的に書きましたので興味のある方はどうぞ）。それがさらに進むと階段を昇っていくようなイメージにも変わっていくかもしれません。水平方向と縦方向に自分が広がっていくイメージ。伸びしろが3Dに分布していて、誰にでもある得意分野に関しては青天井。これが私の考える「成長のイメージ」です。

まずは目指すところを高くする。すっごく高くてもいいけれど、まずはその目標の高さを分割して手が届きそうで届かないレベルに設定する。そしてそこに向かってたゆまぬ努力をする。そうすれば知らない間に一段高いところにいるはず。一段高いところがあると、昔悩んでいたことがなんてちっぽけなことだったんだと気づくはず。同時に高いところに上がったつもりが、そんなに高くなかったことに気がつく、と思えます（この縦方向の成長イメージについては2013年10月号「穴道湖」もご覧ください）。成長って多分これの繰り返しです。高いところに上がればしん

どいこともあるでしょう。でもできることの喜びの方がそれを上回る日がいつかやってきます。誰かの成長を指をくわえて見ていたり、他者に依存してはいいつまでも成長できません。自分で伸びしろを縮めてしまうことになるからです。突き詰めて仕事をしていく、勉強をしていくと、自分の得意なところがわかったりしてくるものなのです。

急に成長はしません。でも努力をし続けられない限り成長もしません。ちょっと前にできなかったことや悩んでいたことに答えが出るようになったり、ストレスを感じなくなってくれば成長している証です。とにかく「前へ」進み続けてください。努力は大抵報われます。まずは3Dの「成長イメージ」を持ってください。例えるなら“球体”に近いものが自分の周りにあるイメージでしょうか。その“球体”がまだまだ大きくなれる、というイメージです。すごい人や偉い人って、出会ったときにものすごい“オーラ”を感じることもあるでしょう？その人の周囲に滲み出ているような、アレです。で、正しい方向で努力を続けてください。謙遜・遠慮は無用。誰しもいくつまでも伸びしろがある。「もう私は……だから」と言った時点で成長って止まっちゃうんだと思います。自分で止めちゃわないようにしてください。自力でなんとかしようとする。できそうになれば先輩やメンターに相談してみる。それで方向性を確認して、さらに努力を続ける……。

なんだか抽象的な話に終始してしまったように思いますが、私は皆さんにせっきく今の職業に就いたのだから、それを通じて「なりたい自分」になっていたきたいと願っています。そのお手伝いを教育研修部ができれば何よりです。さあ、皆さん頑張ってくださいませ！



米国胸部医師学会によるCHEST2014に参加して

呼吸器内科医師 岩本 信一

2014年10月25日から、米国テキサス州オースチンで開催された米国胸部医師学会によるCHEST 2014に参加させて頂きました（写真1）。超音波気管支鏡を用いたエタノール注入療法を当院気道インターベンションチームで開発したので、私はチームを代表して、発表させて頂きました。

EBUS-TBNAという超音波気管支鏡で縦隔リンパ節を確認しながら穿刺を行う手技が広く普及しており、低侵襲に縦隔リンパ節転移の診断ができるようになりました。当時千葉大学呼吸器外科におられた安福和弘先生（写真2）が考案された手技で、日本発で世界的に普及した画期的な手技のひとつです。

気管支鏡下のエタノール注入療法は、本邦において、腫瘍性気道狭窄に対する姑息的治療として多くの施設で行われておりました。この治療には、特別な器具を必要とせず、どの施設でも手軽に行え、エタノールに強い組織凝固作用があり、他の処置と異なり気道熱傷のリスクがないという大きな強みがあります。しかし、壁外性病変に効果がなく、腫瘍内のどの部分にエタノールが注入されたかわからない、どのくらい気道にエタノールが漏れたかわからないという3つの欠点がありました。われわれは、他の診療科では、肝臓癌に対しても、甲状腺過形成に対しても超音波ガイド下にエタノール注入が行われていることに注目しました。超音波気管支鏡を利用することで、従来の気管支鏡下のエタノール注入療法の3つの欠点が克服できると考えました。神田医長と二人三脚で具体的に治療方法を完成させ、院内倫理委員会での承認を経て、実臨床へ応用しました。

症例報告をCHEST2014に登録したところ、アメリカの呼吸器内視鏡学会であるAmerican Association for Bronchology and Interventional Pulmonology (AABIP)のawardに選ばれました。ポスター発表とは別に口演させて頂き、1回の国際学会で2回発表する好機に恵まれました。また、質疑の際にEBUSシステムの開発者であるトロント大学の安福和弘先生（写真2）に助けさせて頂き、EBUSの第一人者となつてつながりができました。後日のポスター発表では、他国の呼吸器内科医と活発な



写真1：オースチンコンベンションセンターにて
(木村医長、神田医長、岩本)

議論ができました。

当院気道インターベンションチームの取組が認められ、代表として発表させて頂き、非常に光栄でした。今後も、「患者さんを耐え難い呼吸苦から助けるためにはどうすればよいか？」とチームで議論を続け、その結果として新しい手技が生み出せれば、臨床の有用性を報告していきたいです。



写真2：AABIP award授賞式にて
(安福先生、岩本)



神経・筋政策医療ネットワーク協議会中国ブロック 平成26年度研究発表会を開催して

臨床研究部長 足立 芳 樹

国立病院機構神経・筋政策医療ネットワーク協議会中国四国ブロックでは、毎年、神経筋研修会を行い、また、年に1回ずつ、中国ブロック、四国ブロックそれぞれで、研究発表会を行っています。今回、一昨年の神経筋研修会に引き続いて、初めて当院が神経筋研究発表会を担当させていただきました。平成27年2月28日(土)、当院大会議室にて開催しました。国立病院機構中国ブロックの各病院の医師、看護師、療養介助専門員、リハビリなど多職種が集まり、主に神経難病や筋ジスに関連した合計11題の研究発表がありました。参加人数は約70人でした。この研究発表会は約10年前に南岡山医療センターで始まり、3年前まで毎年南岡山で行われていましたが、昨年は鳥取医療センター、今年、当院と持ち回り開催になっています。午前11時に、私が開会の挨拶をさせていただき、昼の中国ブロック会議を挟んで、午後3時に当院武海看護部長の閉会の挨拶で終了しました。この間、それぞれの研究発表のセッションでは、先進的な取り組みやチーム医療の大切さなど興味深い発表があり、活発な質疑応答がありました。昼の中国ブロック会議では、各医療機関の現状報告や今後のブロック内での神経筋疾患に対する取り組みな

どが話し合われました。

筋ジスや神経難病は、呼吸困難や嚥下困難、発語困難などの症状が問題になることがあり、長期入院される方も少なくありません。最近、存在感が増してきた



療養介助専門員からの発表もあり、患者さんの療養環境を改善するにはどのようにすれば良いかという観点からも有意義なディスカッションができたと思います。

iPS細胞による難病の解明や治療薬の開発、ブレイン・マシン・インターフェース(手が不自由な方でも、頭で考えただけで、スイッチを押すことができたり、

ロボットアームを動かしたりすることができる技術)といった高度先進技術の進歩はめざましいものがあります。また、医療制度や社会福祉制度も変わっていきます。最先端の情報の共有や各医療機関での新しいチーム医療の取り組みなどの情報交換をすることにより、日々の診療や医療サービスに活かしていくことが出来ると思います。

当院は、鳥根県の難病拠点病院でもあり、今後も地域の神経難病や筋ジス医療の基幹病院として、研究会や研修会を開催していきたいと思っています。



第4回 院内発表会について

臨床研究部長

足立 芳 樹

今年3月7日に、当院大会議室、中会議室にて第4回院内発表会を開催しました。当院の院内発表会は、教育研修部が主体となって、5年前から毎年10月頃、開かれてきましたが、昨年度は、電子カルテの導入や病院引越のため開催されませんでした。今年から、臨床研究部がバトンを受けて担当させていただきます。今回は、院外から講師は招かず、特別講演として、院長に「松江医療センターの変遷と展望」について話をし



ていただきました。また、ランチョンセミナーとして岩田看護副師長に「多職種連携で取り組むチーム医療について考える」を話していただきました。一般口演11題、ポスター演題9題の発表がありました。(最)優秀口演賞、(最)優秀ポスター賞につきましては、それぞれの演者より寄稿していただきましたのでご覧下さい。今回の院内発表会の参加者は145人で、休日ながら多くの職員に参加していただきました。職員の数も多くなり、専門化、分業化されている現在、他の部署がどのような取り組みをしているのか知ることが大切になってくると思いますし、今回の院内発表会も意義深かったと思います。医者、看護師、療養介護、リハビリ、薬剤師、検査、給食、事務などが、患者サービスや医療レベルの向上に、チームとなって取り組む必要がますます高まる中で、このような院内での情報交換の場は、ますます大切になってくると思われます。今後も毎年、年度末頃に開催していきたいと思っております。



院内発表会にて優秀口演賞をいただきました！

2階病棟 看護師
花岡 麻衣

私の担当する重症心身障がい児(者)チームでは、カフ無しの気管切開チューブを使用している患者さんが数名おられ、カニューレ抜去を防ぐために紐の締め具合をきつくすることで、頸部の皮膚トラブルが後を絶ちません。そこで、「頸部の皮膚トラブル予防に向け



て”をテーマに昨年度看護研究に取り組み、その成果を院内発表会で発表させていただきました。発表会には多くの職種の方が参加されており、他職種ならではの貴重な意見をたくさんいただくことが出来ました。このような場で発表する機会が今までにあまりなかったため、私自身にとって大変貴重な経験となりました。

今年度からは看護師6年目になります。今まで経験してきたことを活かし、またこれからもたくさんの方の事を吸収しながらさらに成長していきたいです。



院内発表会 最優秀口演賞

薬剤部 薬剤師
長谷部 匡 史

院内発表会では「電子カルテ導入後の疑義照会の現状」という演題で発表をさせて頂きました。私にとって薬剤師になり、初めての口頭での発表でしたが、最優秀口演賞に選んで頂き、大変光栄に思います。今回の発表は、電子カルテ導入後の疑義紹介の内容を分析し、業務改善へつなげるための調査について行いました。実際の改善はまだ充分に取り組めていないのが現状ではありますが、発表に対して質問や感想を多く頂き、薬剤科の業務に関心を持って頂いたことを嬉しく思いました。



他職種の口演やポスター発表などを拝見、拝聴したことで、他職種の取り組みや発表の技術も学ぶことができ、とても貴重な機会となりました。それによって多くの反省点が見つかり、自己研鑽を重ねていくことの必要性を痛感しました。

院内発表会への参加は、今後の薬剤師としての成長へつながることを改めて感じました。

肺非結核性抗酸菌症に対する内科および外科療法の治療効果

呼吸器外科医長
伊藤 則 正

肺抗酸菌症の中で、肺結核症が年々減少している一方、人から人へ感染しない肺非結核性抗酸菌症（肺NTM症）は徐々に増加している。肺NTM症の治療についての指針が発表されているが、治療効果についての報告は十分ではない。当院が研究代表者となり2012-2014年度に全国の国立病院機構の病院において肺NTM症に対する内科および外科治療法に関する実態調査と治療効果の解析という研究を行っている。2006～11年に肺NTM症で薬物療法を行った263例および手術を行った56例に対し、臨床因子、治療状況による排菌消失率、生命予後を検討した。無症状例、混合感染例、化学療法中止変更なし（特にリファンピシン、クラリスロマイシン、エサンブトール（RECAM）使用例）で菌消失率が有意に高かった。化学療法期間は1-1.5年の症例が最も菌消失率が高かった。肺MAC症の治療はRECAMを含み、途中で中止変更とならないよう、最短で1.5年以上継続することで良好な成績につながる可能性が示唆された。手術例での症例の予後は良好であり、外科手術例が化学療法例より予後良好の傾向を認めた。



院内発表会 優秀口演賞 題目：血小板製剤輸血後に不規則抗体が検出された症例

臨床検査科 臨床検査技師
清水 友 章

この度行われた院内発表会にて優秀口演賞をいただき、大変嬉しく思います。昨年、日本臨床衛生検査技師会中四国支部医学検査学会においても優秀演題発表賞をいただいております。この演題が評価されている事を再確認させていただきました。この症例は通常通りの検査であれば発見されず、「念の為に検査してみよう」と思い検査したら偶然に不規則抗体が検出された症例でした。固定概念を持たずに何に対してでも疑問を持ち、理解するまで調べる大切さを勉強させられました。



当たり前と行って行っている事にも理由はあると思いますが、それを一度見直してみると視野が広がるかもしれません。もっと今以上に視野を広げ、疑問を追究し自己研鑽に努めたいと思います。この演題を作成するにあたりお世話になった皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

～院内発表会に参加して～

1階病棟 看護師

陰山 朋美

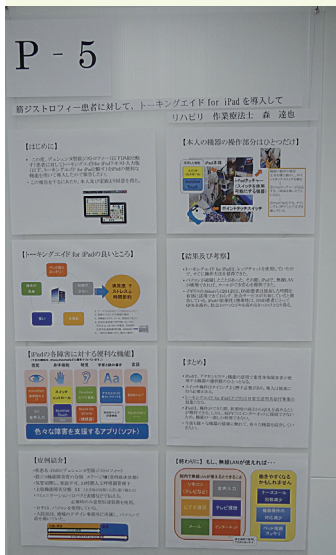
3月に当病院の院内発表会に参加し、優秀ポスター賞を頂きましたので、ここに報告します。「筋強直性ジストロフィー（以下MyD）患者の入眠時鼻マスク装着時のケア行動分析」という研究を行いました。この研究では、上手な看護師3名の暗黙知の部分明らかにすることができました。上手な看護師は患者の重要ポイントを見抜くことが出来、なおかつ、状態の変化も見抜きながら、今までの実践の中で得られた感覚、暗黙知、手順を使って対応できる実践的知能技術を身につけているということ。そして、これらの手技的な暗黙知に加え、周囲の状況として、看護師側の精神をコントロールできるスキルを持ち、疾病の特徴から患者を混乱させないよう、予測した看護、先取り看護に対する意識の高さを持って、看護師主導で進めるといった暗黙知を獲得していました。今回明らかになった暗黙知を患者に関わるスタッフに伝えることができれば、より質の高い看護技術の提供に大いに役立つと考えます。



最優秀ポスター賞を受賞して

リハビリ科 作業療法士

森 達也



この度は、最優秀ポスター賞に選出いただき、誠にありがとうございます。ご協力くださった皆様のおかげと思います。今回、障がいのため話せなくなった患者さんに対して、iPad（アイパッド）で、トーキングエイド for iPadとアクセシビリティ（補助）機能を用いて言葉を伝えられるように支援させていただきました。これにより、指が少ししか動かせない方や目の見えない方でも文字等を選んで作成した文章を、合成音声で読み上げたり、メール送信したりすることができます。障がいをもつとできなくなることで悲観的になりますが、これがあればできることもあります。その中で色々なひとと出逢い、新たな人生を開かれる方もいらっしゃるかと思います。これからも作業療法（OT）でIT支援を通して、患者さんの当たり前を取り戻す力となるよう努力していきます。



優秀ポスター賞を頂きました

臨床工学技士

竹下 太郎



今回、私は院内発表会でのポスター発表を行う機会をいただき、その結果優秀ポスター賞を頂きました。題名は「安全で効果的な酸素療法を目指して」で酸素療法の中でも特殊なオキシマイザーとハイフローシステムに焦点を当てた内容です。この題名にした理由は簡易に行える酸素療法でも使用方法等により患者さんに影響を与える可能性があることをより多くのスタッフに知ってもらいたかったからです。発表の時間には多くの質問をいただき、人生初のポスター発表で不安だけでしたが質問者との距離感などポスター発表特有の雰囲気を感じることでできともいい経験になりました。また、他の演者の方の発表を拝見させていただき相手への伝え方など勉強になることがたくさんあり、自分に足りないものを再確認することができました。最後に今回院内発表会の会場に入るなり明らかに自分の服装が軽装すぎ自分の常識の無さを痛感しました。以後気をつけます！

医療安全管理研修Ⅱを終えて

看護部 医療安全管理係長 松岡 芳江

診療報酬のひとつに医療安全対策加算という加算があります。この加算の条件として全職員を対象に医療安全に関する研修を年2回程度実施することが求められています。医療安全管理室では、患者さんに安全・安心な医療サービスを提供するための研修を企画して、全職員参加に向けて毎年努力を重ねています。

平成26年度の医療安全管理研修ⅠはAEDの操作体験とMRIの吸着体験を行い、とても好評でした。(平成26年7月1日発行の宍道湖第159号の記事もご覧ください。)

医療安全管理研修Ⅱは、医療安全推進担当者が各部署で活動した医療安全に関する取り組みを発表してもらいました。2月26日と27日で全18部署の取り組みが発表され、延べ230名の参加がありました。業務時間内での開催のため見逃した取り組み発表を見逃してしまった方もいらっしゃると思います。DVDを作成しましたので、申し出ただけであれば貸し出し可能です。

今回の取り組み発表では新病院でのトラブル発生時を想定したシミュレーションや電子カルテ導入に関する対策など、他部署多職種の医療安全に関する取り組みを知る機会となり、全職員の医療安全文化醸成への意識の高まりを感じることができました。

平成27年度の病院目標【3. 病院の組織力を高め、温かく質の高い医療・療育を提供する】を達成するためにも、職員一人ひとりが患者さんにとっての安全・安心を第一に考えられるよう医療安全管理室はこれからもサポートしてまいります。

最後になりましたが、私はこのたび南岡山医療センターに異動となりました。8年間皆様に支えていただき本当にありがとうございました。これからも、施設間の懸け橋として努力していきたいと思っております。またお会いできる日を楽しみにしております。



1階・2階・3階病棟「還暦の式」

療育指導室 児童指導員 直江 みゆき

平成27年1月15日(木)午後2時から、「還暦の式」を3階病棟のデイルームで実施しました。

還暦を迎えられた方は1階病棟3名、3階病棟3名、合計6名で、1・2階病棟患者さんの代表、3階病棟患者さん、ご家族、職員が参加して厳かに行いました。始めに、徳島院長の式辞、次に、齋田小児科医長、筋ジストロフィー病棟家族会副会長、重症心身障害児(者)病棟家族会会長、患者代表の祝辞がありました。徳島院長から一人一人に記念品





(写真立て)が贈呈され、患者さんは素敵な笑顔や穏やかな表情で受け取られました。最後に、答辞ではご家族代表がこれまでの思い、そして、感謝の気持ちを述べられました。還暦の式は厳粛な雰囲気の中にも和やかな感じで終了しました。その後、各階病棟にてお祝い会を行い、多くの人と共に祝福できて大変よかったです。皆さんご協力して頂きありがとうございました。



3階病棟 節分会

療育指導室 保育士 橋本 由美子

2月12日、3階病棟で「節分会」を行いました。まず、始めに節分にちなんだクイズ「節分クエスチョン」で楽しみました。患者さんは、言葉で答えられる方、身体を使って答える方などコミュニケーションの取り方は様々ですが、今回はクイズの前に手話を使って「ちがう・そう」の伝え方をみんなで練習したあと、二者択一で問題に答えてもらいました。

次はみんなが楽しみにしているスポンジボール豆まきです。会場からやっつけたい鬼「怒りんぼ鬼」「くたびれ鬼」などを即興で指導室スタッフがなりきり演じました。看護師、療養介助員も鬼に扮して登場し、会場が大いに盛り上がりました。協力して

くださったみなさんありがとうございました。



がんサロンのご案内 ～コーヒー入れて待ってます～

看護部長
武海 栄

お知らせ

平成19年度から開催されているがんサロンを担当者の充実を図り、本年度リニューアルすることになりました。

がん患者様やご家族の方にお集まりいただき、がん医療やよりよく生活するための情報交換の場としたいと考えています。美味しいコーヒーとお菓子を準備して、皆様のご参加をお待ちしております。

日 時 : 第1金曜日 14時から16時
場 所 : 外来管理診療棟2階「サロン・栄養相談室」
参 加 費 : 無 料
申 し 込 み : 不 要
問 い 合 わ せ 先 : 当院 地域医療連携室

各診療科・各部門職場紹介



教育研修部

教育研修部は、「教育の発信源を一つにし、より効率のいい教育を提供しよう」というコンセプトのもと、時間内研修部門・時間外研修部門・院内認定部門・院外部門の4部門で構成しています。

お気軽に声をかけてください。



左側 山本副教育研修室長 中央 門脇教育研修部長 右側 永井事務助手

ME室



ME室は、ME機器（医療機器）の保守点検、修理などを行っている場所です。臨床工学技士が2名在籍しており、人工呼吸器を主に300台を超える様々な医療機器を管理しています。



左側 竹下臨床工学技士 右側 笠置主任臨床工学技士

放射線科



診療放射線技師4名と受付事務員1名で、診断に適した医療画像情報を各診療科に提供しています。X線撮影装置、64列CT、1.5テスラMRI、核医学診断装置（RI）、X線透視装置などを使用しての画像診断検査、及びリニアック装置での放射線治療を行っています。

また、低線量X線を用いた肺がんCT検診を毎日実施しています。低線量でも良好な画像再生が可能なソフトを導入していますので、安心して受けていただけます。



放射線科のつわもの達

ニューフェイス紹介～桜の下で笑顔満開～

看護部長 武海 栄

今年も待ちに待った新採用者25名と転入者3名のニューフェイスを迎え、看護師数も230名の大台に乗りました。新採用者25名は、4月1日から2日間のオリエンテーションの後、年に19回にわたる技術研修を受けることになっています。“少しおとなしめ”なのが気になりますが、6月の宿泊研修後が楽しみです。例年のように（駐車場が新しくなってからは初めて）、病院玄関の桜の下で徳島院長を真ん中にして記念写真を撮影しました。ずっと天気が悪く、これ以後も晴天に恵まれなかったのが、本当によい日に撮影できたと思っています。左の肩に新採用者である証の当院のロゴマークを見つけたら、どうか声を掛けて、優しく指導をお願いいたします。



転勤で参りました



氏名：上甲 尚史

職名：事務部長
ご挨拶：四国こどもとおとなの医療センターより異動してきました。出身は愛媛で海を越え、山を越え、日本海までやって来ました。穏やかな瀬戸内で育ちましたので、山陰では弱輩者ですが、「日本一暮らしやすい」と言われる松江を満喫したいと思っています。一日も早く病院に慣れて皆様のお役に立ちたいと思っていますので、ご協力とご支援を宜しくお願い致します。



氏名：上藤 大征

職名：企画課長
趣味：趣味は仕事、道楽は親孝行、カーブは命！
ご挨拶：山口宇部医療センターから異動してまいりました。9年ぶり2度目の勤務となります。前回の勤務では良い思い出ばかりの大好きな松江医療センターのために全力で取り組みますのでよろしくお願いいたします。



氏名：八本 聖秀

職名：薬剤部長
趣味：映画・ツーリング・模型・ゲーム
抱負：薬剤部門においては施設のニーズにあった業務の適合性及び有効性を継続的に維持・改善していきたいと考えています。心配は寒い所がとっても苦手なことです。



氏名：長野 義久

職名：経営企画室長
趣味：体を動かすこと全般（広く浅く）
御挨拶：関門医療センターより参りました。今までの経験を活かし松江医療センターに貢献するとともに、自分でも経験のない新しい何かを残せればと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。



氏名：奥村 真美

職名：看護師長
趣味：美味しいものを食べること
最近、山登りを始めました
ご挨拶：山口宇部医療センターより異動してきました。初めての転勤、看護師長への昇任をして緊張していますが、一日でも早く松江の生活に慣れ、患者さん、スタッフの皆さんが少しでも過ごしやすい病棟が築けるように精一杯頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



氏名：戸野 佳子

職名：看護師長（地域医療連携係長）
趣味：スポーツ観戦（一番好きなのは野球！）
スポーツ（するのは ソフトテニス・水泳・ゴルフ）
特 技：どこでも3分で寝れること。
ご挨拶・抱負：新しい部署での勤務となり、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが一から学んでいきたいと思っていますのでご指導のほどよろしくお願いいたします。
私生活では、文化の香りがするこの松江で、文化的な生活してみたいです。



氏名：なかだ さなえ
中田 早苗

職名：看護師長
趣味：ドライブ、旅行
特技：水泳
ご挨拶：この度、米子医療センターより転勤して参りました。出身は安来です。早く皆様のお仲間になれるよう頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



氏名：おかもと せいこ
岡本 聖子

職名：看護師長
趣味：旅行
ご挨拶：鳥取医療センターより転勤して参りました。出身は倉吉市です。重症心身障がい児（者）病棟の勤務経験はありますが、新たな気持ちで頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひ致します。



氏名：あねがやま みきこ
姉ヶ山 美貴子

職名：看護師長
趣味：旅行
ご挨拶：山口宇部医療センターより異動してまいりました。1日でも早く職場環境に慣れ、松江医療センターの方々
に信頼されるよう頑張っていきたいと思っています。ご指導の程よろしくお願ひ致します。



氏名：ささき あや
佐々木 亜弥

職名：看護師長
趣味：温泉めぐり 食べ歩き
ご挨拶：抱負：東広島医療センターより異動して参りました。出身は浜田です。1日でも早く職場環境に慣れ、様々の事に挑戦していきたいと思っています。ご指導のほど宜しくお願ひ致します。

人事異動

発令月日	事項	職名	氏名	備考
3月31日	定年退職	看護師長	金津 貴子	
3月31日	辞職	看護師長	矢倉 みどり	
3月31日	辞職	主任保育士	背戸 紀子	
3月31日	辞職	児童指導員	直江 みゆき	
4月1日	昇任	薬剤科長	三好 浩一郎	鳥取医療センターへ
4月1日	昇任	副診療放射線技師長	池口 博道	浜田医療センターへ
4月1日	配置換	看護師長	松岡 芳江	南岡山医療センターへ
4月1日	配置換	看護師長	山崎 みどり	鳥取医療センターへ
4月1日	配置換	看護師長	本間 みどり	敦賀医療センターへ
4月1日	配置換	事務部長	嘉藤 一博	米子医療センターへ
4月1日	昇任	企画課長	嘉数 和俊	高松医療センターへ
4月1日	配置換	経営企画室長	山根 知己	岡山医療センターへ
4月1日	昇任	薬剤部長	八本 聖秀	広島西医療センターから
4月1日	配置換	副診療放射線技師長	新地 正美智	高知病院センターから
4月1日	昇任	理学療法主任	佐々木 清美	浜田医療センターから
4月1日	昇任	看護師長	奥村 真美	山口宇部医療センターから
4月1日	昇任	看護師長	中田 早苗	米子医療センターから
4月1日	配置換	看護師長	戸野 佳子	鳥取医療センターから
4月1日	配置換	看護師長	岡本 聖子	鳥取医療センターから
4月1日	配置換	看護師長	姉ヶ山 美貴子	山口宇部医療センターから
4月1日	配置換	看護師長	佐々木 亜弥	東広島医療センターから
4月1日	昇任	事務部長	上甲 尚史	こどもとおとな医療センターから
4月1日	配置換	企画課長	上藤 大征	山口宇部医療センターから
4月1日	昇任	経営企画室長	長野 義久	関門医療センターから

●●● 開業医紹介コーナー ●●●

病病・病診連携

No.11

乃木クリニック



当院は平成元年4月の開設です。私は昭和56年に鳥取大学医学部を卒業し、同大学放射線科に入局し、松江市立病院放射線科等に勤務した後、開業に至っています。毎週金曜日と土曜日には国際医療福祉大学、島根大学の医師による消化器専門外来として、上部や下部の内視鏡等を行っています。医療センターさんには開設の頃から大変お世話になっています。肺炎や気胸等の急性の疾患の紹介の際には診療時間外でも快く対応していただき、診断に迷うような難しい症例にも詳細な報告を頂いております。いつでも相談できる医療機関として大変頼りにしています。私は診療中、時間に余裕があるときに患者さんと雑談をすることを楽しみとしています。いろいろな職業の方の仕事の話や、趣味や旅行の話、子供さんの近況、また自宅で介護をしている人の苦労話や、家人への不平不満まで、少しの会話ですが、その都度新しい発見があります。当院のスタッフも暖かい気持ちで患者さんと接しています。アットホームな雰囲気で行っています。

医療法人社団 乃木クリニック

院長 天野 宏明

内科・呼吸器科・放射線科・消化器科
胃腸科・人間ドック

診療時間

月～木 午前8:00-12:30 午後15:30-18:30
木、金 午前8:00-12:30 午後15:30-18:00
土 午前8:00-12:30 午後 休診

〒690-0044 松江市浜乃木2丁目7-17

電話 0852-26-5122



院長先生とスタッフの皆様

しじみ会 (新春号・二月立春号・三月ひな祭号)

リハビリテーション科 作業療法士

- ・寒牡丹 寒さを凌ぐ こもかぶり
「となりの住人」
- ・七草や 名前ばかりで 品たりず
「京の静さん」
- ・今思う 亡き母年齢 超えたよね 時を感じて 母を感じて
「愛佳さん」
- ・雪を割り 露の蓋たち 芽を開く
「カラス貝さん」
- ・石うすで ついたお餅で おもてなし
「小次郎さん」
- ・曇天に 光芒一闪 尊厳なる
「N」さん

- ・初詣 願いこめたる 人の列
「白イルカさん」
- ・立春へ お日様ちよつと いい顔へ
「ふた葉さん」
- ・雪かきを 隣近所で 助けあう
「三度笠さん」
- ・雪のけて 咲いてくれたか 梅の花 世話できずとも 庭に春来る
「中ちゃん」
- ・出雲富士 真白なドレスで 裾野まで
「ふくろうさん」

地域医療連携室だより

第 20 号

2015 年 4 月



1. 新メンバーでスタートしました

満開の桜に囲まれ、地域医療連携室は新メンバーでスタートしました。

今年度も、地域の病院や医師会の先生方のご協力をいただきながら、患者さんに継続した医療・看護を提供できるように、また、呼吸器疾患、神経・筋疾患、重症心身障がい児（者）の専門病院としての役割を担いながら地域の皆さんに気持ちよく訪れていただけるよう取り組んでまいります。



(写真左より、福井看護師、来海事務助手、矢野副院長、戸野地域医療連携係長、松本MSW)

〈プチ自己紹介〉

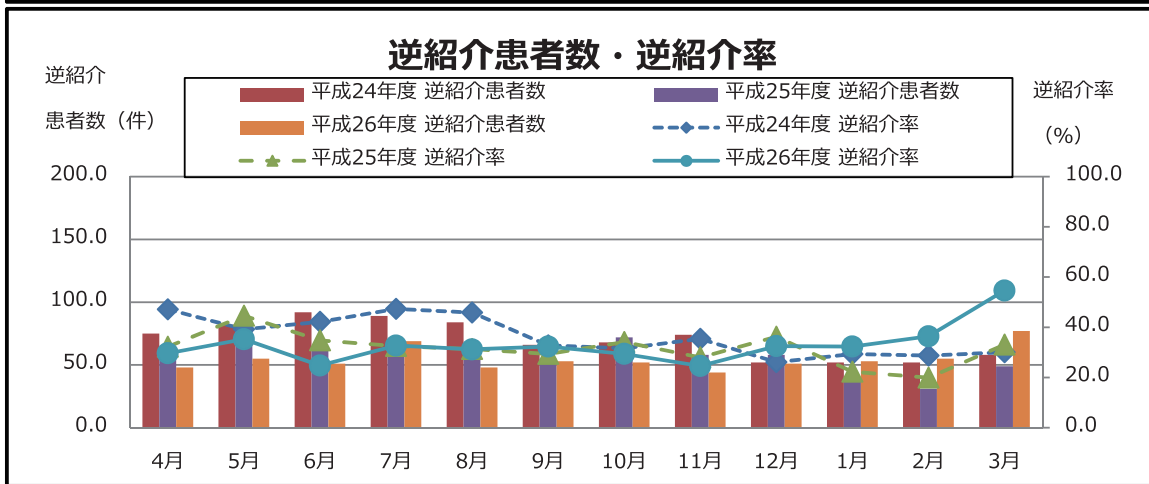
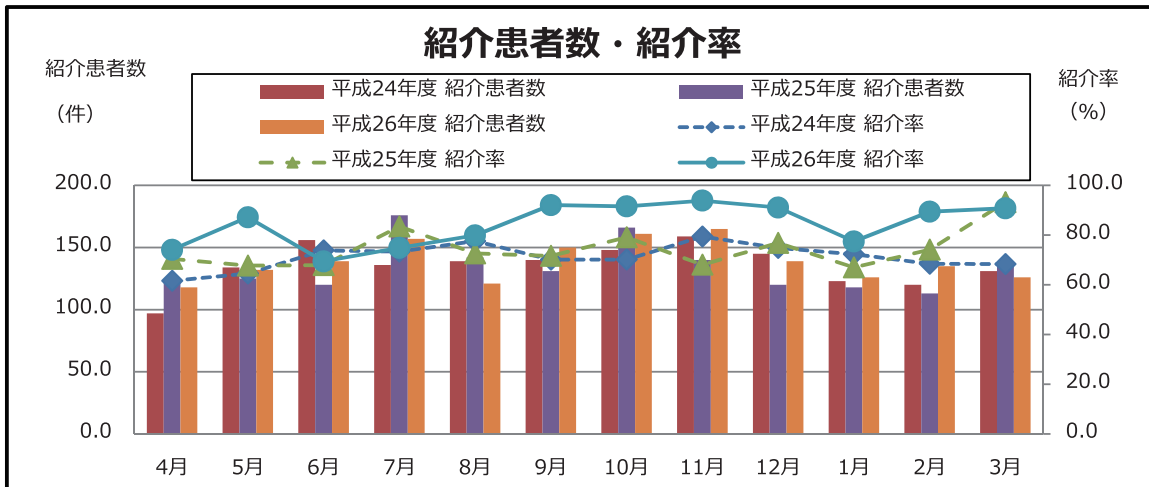
地域医療連携係長の戸野です。

連携室の業務に携わるのは初めてですが、真摯に取り組んでいきたいと思ひます。

宜しくお願ひいたします。



2. 紹介患者数・紹介率／逆紹介患者数・逆紹介率の推移



3. 退院支援データ

毎週対象病棟で退院支援カンファレンスを実施しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退院支援患者	64人	57人	55人	68人	48人	44人	57人	54人	44人	34人	55人	61人
退院先												
在宅	17人	12人	15人	8人	14人	11人	19人	15人	16人	8人	18人	21人
施設	0人	2人	0人	3人	1人	1人	1人	1人	0人	0人	2人	2人
病院	2人	2人	2人	8人	6人	1人	1人	1人	2人	5人	1人	2人



外来診療表

お気軽にご相談下さい

平成27年4月1日現在

診療科	日	月	火	水	木	金	専門領域	
呼吸器内科	日	神田	小林	木村	門脇	池田	【呼吸器内科】 矢野 修一 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 神田 響 多田 光宏 岩本 信一 西川恵美子	
	月	多田	神田	岩本	西川	木村		【副院長】呼吸器一般（肺循環・肺がん・結核他） 【統括診療部長】呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般
	火	矢野	門脇	池田	矢野	小林		
神経内科	水		下山		足立	隔週 鳥大医師	【神経内科】 足立 芳樹 下山 良二	
	木	鳥取大学医学部医師の診療予定日(隔週金曜日) 4月10日・4月24日・5月8日・6月5日・6月19日						【臨床研究部長】神経内科 神経内科・リハビリテーション
外科	金	徳島		目次		伊藤	【外科】 徳島 武 目次 裕之 伊藤 則正 城所 嘉輝	
	土	城所						【院長】呼吸器外科・胸腔鏡下手術（肺癌・自然気胸他） 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科
小児科	日	久保田	齋田	齋田	久保田	齋田	【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 中村 裕子	
	月	(予約)	久保田	(予約)	(予約)	(中村)		重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害・重度心身障害
発達 専門外来	火	(予約)	中村	久保田	中村	久保田	【麻酔科】 西村友紀子 麻酔科領域	
	水	中村	中村	久保田	中村	久保田		
予防接種	木		(予約)				診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30 自動再来受付 8:00~11:30	
	金							
肺がん検診	土	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター 呼吸器病センター 〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号 電話 (0852) 21-6131(代) 医療連携室直通電話 (0852) 24-7671 医療連携室 F A X (0852) 24-7661	
	日							
睡眠時無呼吸 外来	月				呼吸器内科 担当医(予約)		Matsue Medical Center 	
	火							
息切れ 外来	水		呼吸器内科 担当医(予約)				【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 中村 裕子	
	木							
喘息 アレルギー外来	金					池田 (予約)	重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害・重度心身障害	
	土					池田 (予約)		
咳嗽外来	日						【麻酔科】 西村友紀子 麻酔科領域	
	月							
禁煙外来	火				毎週木曜日 呼吸器内科 担当医(予約)		診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30 自動再来受付 8:00~11:30	
	水							
アスベスト 外来	木		小林 (予約)	木村 (予約)	門脇 (予約)		独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター 呼吸器病センター 〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号 電話 (0852) 21-6131(代) 医療連携室直通電話 (0852) 24-7671 医療連携室 F A X (0852) 24-7661	
	金							
嚔下障害 外来	土		下山 (予約)				Matsue Medical Center 	
	日							
神経難病 外来	月		下山		足立芳樹		【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 中村 裕子	
	火							
筋ジストロフィー 専門外来	水				下山 (予約)		【麻酔科】 西村友紀子 麻酔科領域	
	木							
セカンド オペニオン 外来	金	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30 自動再来受付 8:00~11:30	
	土							

特 殊 外 来	小児科発達 専門外来	診療日：毎週月～金曜日 内容と特色：ごとばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
	肺がん検診	診療日：毎週月～金曜日 15:00～17:00 (要予約) 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,400円
	睡眠時無呼吸 外来	診療日：毎週木曜日 14:00～16:00 (要予約) 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
	息切れ外来	診療日：毎週火曜日 13:00～15:00 (要予約) 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
	喘息 アレルギー外来	診療日：毎週月・金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：成人気管支喘息、花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
	慢性咳嗽外来	診療日：毎週月・金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：3週間以上長引く咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。
	禁煙外来	診療日：毎週木曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
	アスベスト外来	診療日：毎週火・水・木曜日 8:30～11:00 (要予約) 内容と特色：石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
	嚔下障害外来	診療日：毎週火曜日 9:00～12:00 嚔下障害外来 (要予約)
	神経難病外来	診療日：毎週火・木曜日 9:00～12:00 神経難病外来
	筋ジストロフィー 専門外来	診療日：毎週木曜日(予約=指導室まで) 9:00～12:00 内容と特色：筋ジストロフィー病棟医が診療に当たります。診断から在宅ケアのための医療や介護・福祉サービスの紹介など専門的、総合的外来です。在宅患者に必要な定期的精査短期入院(筋ジストック)も受け付けています。
	セカンド オペニオン 外来	診療日：(完全予約制) 紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科(筋ジス)の専門医(医長)が担当いたします。